

赤十字 NEWS

May 2016 Vol.912
<http://www.jrc.or.jp>



日本赤十字社
 人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行 / 日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



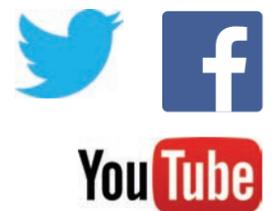
熊本地震災害 医療救護、 被災者支援に全力

2度にわたる最大震度7の激震と治まる気配のない余震。4月14日から始まった熊本地震は、死者58人、全半壊家屋2876戸(4月22日現在消防庁災害対策本部発表)など、熊本県を中心とした各地に甚大な被害をもたらしました。そうした中、日本赤十字社は負傷者救護や避難者への支援など、被災者のいのちと健康を守る活動に全力で取り組んでいます。

熊本県上益城郡の益城町総合体育館で救援物資を運ぶ学生ボランティア

CONTENTS

1 TOPICS 平成28年熊本地震災害 全国から医療救護班が熊本へ 被災地中学生が日赤訪問 岩手県大船渡市立赤崎中学校	2 TOPICS 児童福祉週間 (5月5~11日) 常任理事会開催報告	3 SPECIAL 赤十字運動月間 活動資金が支える 災害時の救護・支援活動	4 5 AREA NEWS 山口・兵庫・静岡・島根・埼玉 徳島・神奈川・愛知 愛の献血×MUSIC= LOVE in Action Meeting (LIVE) ネパール地震災害復興支援 学校再建に向け現地調査 Voice&プレゼント	6 7 WORLD 昭憲皇太后基金 配分決定 継聖会が初の チャリティー講演会 エクアドル地震救援金	8
--	--	---	---	---	---



今月の 出 会 い



原宿表参道 けやき 榊会 理事長
松井 誠一さん

「普段の生活こそが大切なんです」

赤十字運動月間中、表参道に掲げられる赤十字旗。ことしで7回目を迎えるこのイベントに協力しているのが「原宿表参道榊会」です。理事長の松井さんは「表参道添いに日の丸と併せて掲揚しています。シンプルな2枚の旗は新緑に良く映え、街によく似合います」。

松井さんの父親が表参道で商売を始めたのは昭和39年。「人通りが少なく、自動車も通っていない。一方、現在の代々木公園の中に米軍住宅があったので、外国人向けの土産物屋さんが目立っていました」と振り返ります。その後、東京五輪と高度成長を契機に東京が変貌する中、昭和48年に榊会の前身、原宿シャンゼリゼ

会が発足。商売よりも、この街で暮らす住民の生活を一番に考えていこうと、環境と緑を守る活動に取り組んできたといいます。「そこが新宿や渋谷との違い。住民の日常生活こそが大切。日赤への協力もこの普段を大切に活動の延長と位置づけています」

一方、原宿といえば今や世界から注目されるファッション。その点について「原宿のファッションは若い人たちのストリートファッション。自由な表現のチャレンジをこの街は受け入れてきました。それもこの街の魅力なんです」と目を細めて答えてくれました。

PROFILE

1951年、青森県生まれ。慶應義塾大学卒。1976年に原宿シャンゼリゼ会の理事に就任し、街の環境保全活動などに尽力してきました。2006年から同会理事長。シンボルであるけやき並木の傷みが目立ってきたことから、今後、会としても維持・管理に力を入れていく予定です。



全国から6チームのdERUも出動

dERU(緊急仮設診療所)は、エアレントや外科用具などの医療資機材、診察台、簡易ベッドなどを備えた国内型緊急対応ユニット。全国から6班が出動し、避難所などに仮設診療所を開設。被災者の救護活動にあたりました。南阿蘇村には、診療所、手術室、レントゲン撮影室などの装備を持つdERUも展開しました。



© Ichigo Sugawara



こころのケア

被災者、支援者両方を対象とした「こころのケアセンター」の立ち上げ準備を行っています。また、アセスメントの中で、こころのケアも実施しています。

熊本赤十字病院による救護活動

県の基幹災害拠点病院となっている熊本赤十字病院では、震災直後に災害態勢に切り替え、停電の中、ロビーや待合室でも治療を行うなど、殺到する外傷患者に対応しました。また、被災地の医療サービスを維持するため、全国の赤十字病院医師などからなる医療支援チームが20日からサポートに入りました。



避難所アセスメント

適切な支援には、被災者ニーズの調査が欠かせません。日赤では県や医師会との調整の下、阿蘇市、南阿蘇村、西原村、益城町などを中心に、避難所のアセスメントを実施中です。これまで、要介護者用トイレの不足、インフルエンザや風邪など感染症の拡大が判明しています。今後は、衛生環境の悪化によるノロウィルスの発症なども心配されています。

いのちと健康の守り手として 全国から医療救護班が熊本へ

日赤の救護班等活動地域

20日からは医療ニーズに応じて阿蘇市、南阿蘇村、西原村、御船町、益城町などを中心に活動をしています。



断続的な余震活動が治まらない熊本地震災害。体に揺れを感じるたびに、避難所に逃れてきた被災者の顔に緊張が走ります。避難所には「怖くて家には戻れない」という方も多く、余震の長期化に伴って避難所に身を寄せる人数も増加。健康や衛生面での問題も顕在化しつつあります。

発災直後から、情報収集を開始した日本赤十字社は、被害拡大に合わせて救護班を全国から派遣し、避難所での救護活動を実施。また、県の基幹災害拠点病院である熊本赤十字病院が負傷者救護を最前線で支えるなど、医療救護活動を中心にした支援を展開中です。



長野ムツ子さん(76)

(4月20日、南阿蘇村に展開したdERUで) たんすが倒れ、食器が落ち、家の中も外も壁が剥がれ落ちました。今は避難所にいますが、家に戻って片付けをしていたところ、涙が止まらず、目を開けるのが辛くなりました。埃やがれきが原因だったようです。体調の悪い夫もいて、避難所での生活はとても厳しいです。



古閑昌子さん(68) (写真中央)

(4月16日、御船町スポーツセンターで) 通っている病院が被災して、いつも飲んでいる薬がありません。赤十字のマーク、救護服を見ると安心します。全国他県から赤十字の皆さんが来てくれるのがすごくうれしいです。



ボランティア活動

発災直後から、熊本県支部に所属する約20人の赤十字防災ボランティアが救護物資の振り分けや配布、救護班の各避難所への案内などを行いました。地の利があるボランティアのサポートによって、安全・迅速に医療を届けることができています。発災後は大学に避難したという学生のボランティアは「自分たちの町は自分たちで何とかしなくては!」と支部に泊まり込んで、災害ボランティアセンターの運営にあたっています(左)。またボランティアによる赤十字飛行隊(上)は、物資のピストン輸送や被害状況把握のための被災地空撮などを行いました。



同校はかさ上げした土地に現在新校舎を建設中。来年1月から移転を行う予定です

震災後、同校は一年余りにわたり近隣の別の中学校で間借り生活。その後、市内のキャンプ場内に建設された仮設校舎に移り、授業を続けています。仮設体育館は、海外から日赤に寄せられた救済金により建設されました。今回の訪問は、修学旅行の企画の一つとして行われた。生徒たちによる支援のお礼と学校紹介のプレゼンテーションには、日赤の近衛忠輝社長も聴講。「震災の悲劇は、一方で人と人をつなぐ絆を強めてくれました。皆さんも、たくさんつながりを持ってほしいと思います。その経験を未来につなげてほしい」と激励しました。

東日本震災で校舎が全壊する被害を受けた岩手県大船渡市立赤崎中学校の3年生10人が4月14日、東京・港区の日本赤十字社本社を訪問しました。「多くの支援により、充実した学校生活を送れている」とお礼を述べるとともに校歌を披露。現在の学校の様子や復興の状況について報告しました。

被災地中学生が日赤訪問 支援へのお礼と復興を報告

たもの。日赤の活動を学ぶミニ講演や社内見学も行われ、赤十字についての理解を深めました。引率した大塚宏信教諭は「自分たちが受けた支援を振り返り、また日赤の活動を学ぶことで、子どもたちの中に、今度は自分たちが困っている人を助けよう」という気持ちが育つてくれたら嬉しい」と訪問の狙いを話します。



「人がいま、試されている。」

たとえ大きな困難が行く手をはばんでも、何度でも立ち上がる底力が、人間にはある。人間は決してひとりじゃない。手を取り合って生きているからこそ強くなれるのだと、私たちは信じています。



ポスターの写真は、2015年4月にマグニチュード7.8の地震が発生したネパール



CMのムービーは、日本赤十字社のホームページ (http://jrc-undougekan.jp) でもご覧いただけます

故郷を捨てざるを得なかった幾百万の難民、武力紛争で破壊された街並みと犠牲者、自然災害や貧困の前に立ちすくむ人々――いまこの瞬間、世界には明日への希望を失い、苦しむ無数の人たちがいます。この現実から目を背けず、私たちにできることを考えようというのが、ことしの赤十字運動月間のテレビCM・ポスターのメッセージです。テレビCMは、日本の風景を起点にして、数千

1万数千キロ離れた海外へ一気にフォーカス。クローズアップされた紛争地や被災地で苦しむ人たちの姿と私たちの日常を対比することで、私たちの日々のあり方で、私たちの日々のあり方で、私たちが存在が試されていることを静かに訴えかける内容です。テレビCMは運動月間中、各地のTV局、特設サイトなどで放映。ポスターは地域の掲示版などに掲示さ

ライトアップ実施予定施設 (日赤グループ内施設を除く)

2016年4月22日現在
*一部予定が変更になる場合があります

場所	施設名	実施日	時間
北海道・札幌市	さっぽろテレビ塔	5月8日	19:00~21:30
北海道・函館市	五稜郭タワー	5月8日	18:00~22:00
東京都・港区	六本木ヒルズ	5月8日	日没~24:00
東京都・港区	虎ノ門ヒルズ	5月1~11日	日没~25:00
東京都・渋谷区	キティランド原宿	5月8日	日没~21:00
東京都・渋谷区	表参道ヒルズ	5月8日	日没~22:00
東京都・中央区	清水建設本社	5月8日	日没~22:00
富山・富山市	インテック	5月2~8日	日没~22:00
長野・松本市	松本城	5月8日	日没~22:00
長野・長野市	善光寺	5月8日	日没~21:00
愛知・名古屋	名古屋テレビ塔	5月8日	日没~24:00
滋賀・彦根市	彦根城	5月1~8日	日没~21:00
滋賀・大津市	石山寺多宝塔	5月8日	日没~21:00
滋賀・長浜市	旧長浜駅舎	5月1~8日	日没~21:00
滋賀・高島市	今津ウォーリアーズ資料館	5月1~8日	日没~21:00
滋賀・近江八幡市	白雲館	5月1~8日	日没~21:00
滋賀・甲賀市	日本基督教団水口教会	5月1~8日	日没~21:00
兵庫・神戸市	人と防災未来センター	5月8日予定	18:45~21:00
島根・松江市	松江城	5月8日	日没~22:00
岡山・岡山市	ターミナルスクエア	5月1~31日	18:00~24:00
山口・下関市	海峡ゆめタワー	5月7~9日	19:30~21:45
山口・山口市	三宅商事ビル	4月28日(設置日)~5月31日	17:30~22:00
愛媛・松山市	松山城	5月8日	日没~明朝

赤十字ライトアップ運動

考えよう人道 ところを一つに

5月8日の世界赤十字デーを中心に、善光寺などの歴史的建造物から六本木ヒルズなど地域のランドマークまで、全国各地の建物を赤十字色に彩る「赤十字ライトアップ運動」に、ことし初めて取り組みます。赤十字を視覚的にアピールすることで、理解と協力を深め、人道について考える機会となることを期待。熊本

地震の被災者そして救護・支援活動が続ける仲間への応援の思いを込めて、全国を照らします。



救護班による医療支援活動

熊本県支部は発災当初からDMAT(災害派遣医療チーム)や救護班を益城町に派遣。日々変化する状況に合わせて、救護班の投入も増やしています。21日時点で、全国から延べ50班の救護班が派遣され、17班が各避難所に分かれて活動しています。南阿蘇村に派遣された大阪赤十字病院の渡瀬淳一郎医師は「避難生活が長期にわたること、常備薬が切れることや環境の変化による風邪、結膜炎の発症が懸念される」と話しています。



救援物資

避難所アセスメントの結果に基づき、日赤が備蓄する救援物資を被災された方がたへ配布しています。4月21日までに毛布1万8400枚、安眠セット5051個、緊急セット654個、ブルーシート2700枚をお届けしました。配布の際は長蛇の列ができることが多くありますが、現場のニーズ拡大に対応していきます。



被災したジェーンズ邸

西南戦争(明治10年)の最中、有栖川宮征討総督は宿舎としていたジェーンズ邸で、博愛社(日赤の前身)設立の許可を元老院議員・佐野常民(後の日赤初代社長)に出しました。現在、県指定の重要文化財となっているジェーンズ邸も被災、全壊しました。

常任理事会開催報告

平成28年4月15日、本社において平成28年度第1回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は年度初めでもあり、付議事項はありませんでしたが、日本赤十字社の国際活動及び予算の補正にかかると、3月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

子どもの笑顔支えるボランティア 全国15カ所の日赤児童福祉施設

さまざまな事情により家庭で生活できない子どもたちを守り、生活を支えていくのが乳児院などの児童福祉施設です。日赤は全国で15の児童福祉施設を運営しています。各施設では「パートナー」として、赤十字奉仕団をはじめとする地域のボランティアの皆さんが協力。日々の生活に欠かせない存在になっています。

活動内容は、授乳・離乳食の介助や洋服の整理、散歩や遠足の付き添いなど。生活からレクリエーションまで幅広く、親が面会に来られない子どもたちのための「面会ボランティア」といった活動もあります。年間で延べ8700人以上のボランティアが参加しています。

社会で支えよう 子どもたちの成長

児童福祉週間 (5月5~11日)

子どもたちの健やかな成長を国民全体で考える児童福祉週間(主唱)厚生労働省など、協力)日本赤十字社(ほか)が、5月5日から1週間の日程で始まりま

今年度は、福島県の増戸遥さん(13)の作品「その笑顔 未来を照らす 道しるべ」を標語に、児童福祉理念の普及啓発へ向けた行事が全国で催される予定です。

夢はオリンピックの金メダルかな。秋田赤十字乳児院の運動会



赤十字運動月間(5月1~31日)

災害時の救護・支援活動 皆さまの活動資金が支えています

「薬もなく不安でしたが赤十字マークを見て安心しました」。熊本地震災害での日本赤十字社の救護・支援活動に寄せられた被災者の声です。明治21年の磐梯山噴火（福島県）での救護活動以来、日赤は災害救護活動を積み重ねてきました。その実績が、国民からの大きな信頼につながっています。いつどんな災害が発生しても、この信頼に応える活動を展開していくのが私たちの責務です。それに向けて日赤は医療救護班500班を編成し、平時から訓練を実施。また、

dERU（緊急仮設診療所）などの大型の医療資機材や、被災者に配布する救護物資の備蓄なども進めています。こうした災害救護活動を支えているのが、日赤へ寄せられる活動資金です。5月の赤十字運動月間では、資金面から赤十字を支える「社員」への参加や寄付への協力を全国の皆さまに願っています。人間のいのちと健康、尊厳を守る現場に臨む私たちが、より大きな力を発揮していくために。あなたの支援をお寄せください。

皆さんの代わりにって動く赤十字です

佐賀県支部事業推進課 事業推進係長 佐藤洋平さん



救急法を指導する佐藤さん。こうした講習の積み重ねも災害に強い地域づくりにつながります

熊 本地震発災翌日から、佐賀県支部救護班の一員として益城町総合体育館などで活動しました。4月16日未明の本震直後からは、避難者が急増する体育館内で、具合が悪くなった人の担架搬送にも当たりました。

3年前に東京の出版社を辞め、故郷の佐賀にUターン。「人の役に立つ仕事がしたい」と考えていた時、赤十字に出会いました。人道のために世界190カ国・地域の人々が活動し、日本にも学生ボランティアや奉仕団など無償で活動する人たちが大勢いることは衝撃でした。以来、赤十字の素晴らしいと感じながら仕事をしています。赤十字はいざというとき、皆さんの代わりにって困っている人を支える組織です。熊本地震でもたくさんの赤十字職員やボランティアが動いています。ぜひ赤十字を知っていただき、活動をバックアップしてください。



救護所で被災した方を案内している佐藤さん（右）

「救護服を着ると勇気が湧いてきます」

東海北陸ブロック血液センター経理課・経理係長 桜井剛さん



いち早く血液製剤を届けるため、血液センターに泊まり込みながら被災地を走り回りました

こ とし4月に経理に配属されたばかりです。お金の計算？と思われるかも知れませんが、実は数字の分析が主な業務。経営戦力の判断材料となるような資料を作っています。裏方ではありますが、医療機関や献血ルームなどの最前線を支える役割を果たしています。

東日本大震災の際は、宮城県の血液センターの応援に駆けつけました。第一班目に指名されたときは、不安でいっぱいになりましたが、救護服を着ると不思議と勇気が湧いてくるんですね。センターに泊まり込んで血液供給の手伝いをさせていただきました。

阪神淡路でも東日本でも、大きな災害時には献血者が急増します。「助けたい」という気持ちは本当に大勢の人が持っています。こうした気持ちを普段から実践していただき、災害救護に日赤がもっと力を発揮できるよう力を貸してください。

生徒の心も成長させるレスキュー部

荒川区立南千住第二中学校 齋藤進校長



保育園との合同避難訓練では、部員みんなで園児たちの避難を誘導します

平 成24年に創設したレスキュー部の目的は「防災意識の向上」と「地域貢献」の二つ。防災を通じて、生徒たちが地域とつながる視点を大切にしています。具体的な活動は、夏休みの防災宿泊訓練や地域の防災訓練への参加など。平成25年からは、高齢者宅を月1回訪問する「絆ネットワーク活動」も始めました。支援が必要な人と顔見知りになることは、災害時の避難誘導に役立つとともに、日常的な安否確認にもなると喜ばれています。

レスキュー部の活動は、生徒たちの心の成長にもつながっています。人に感謝され、認められた経験が、優しい気持ちを育むからです。昨年2月の大雪の際には、レスキュー部員が自主的に地域の雪かきを行いました。青少年赤十字の精神である「気づき・考え・実行する」を実践できる生徒が育ってきたのが嬉しいですね。

「俺がやらなきゃ誰がやる！」

宮城県赤十字安全奉仕団委員長 宮城県塩釜市在住 大友明夫さん



ハーレーと一緒に、定年後に始めた趣味のバイクは「男のロマン」と大友さん



陸 上自衛隊に勤務していたころ、水上安全法の指導員資格を取得。そこから赤十字との付き合いが始まり、退職後に宮城県安全奉仕団に加入しました。月3~4回、救急法や幼児安全法の指導員として活動しています。「俺がやらなきゃ誰がやる」という使命感は自衛隊時代と変わりません。

東日本大震災では、県支部赤十字防災ボランティアセンターのセンター長として、ボランティアの活動調整などを行いました。準備不足もありましたが、一人では何もできなかったですね。周囲のサポートがあればこそその活動でした。心から感謝しています。

赤十字には、多くの人と出会う場があります。そして震災で私が痛感したように、人のつながりこそが、いざというときの力になるんです。私たちとつながる仲間が一人でも増えると嬉しいですね。

「各国赤十字との協働が強みです」

広島赤十字・原爆病院総務課 庶務係長 福庭健二さん



地震後にコレラがまん延したハイチ。日赤の医療支援は大勢の子どものいのちを救いました

大 学時代から国際支援に興味があり、日赤への就職もそれが理由でした。入社5年目に国際救援の研修を受け、メンバー登録。ハイチ大地震（2010年）や昨年のネパール地震での救援活動に参加してきました。熊本地震発災後にも熊本に派遣され、益城町総合体育館に開設している救護所で活動しています。医療メンバーが力を発揮できるよう、現地での調整などを行うのが管理要員である私の仕事です。普段は院内の総務課で働いていますが、いい治療が行えるよう病院全体をとりまとめているのが役割です。共通する部分もあると思っています。

世界にネットワークを持つ赤十字は、各国組織と協働できるのが強み。それぞれの力を生かした活動を展開しています。でも、こうした取り組みは、国民にあまり知られてはいないのが現実です。皆さんへの活動報告を充実させ、赤十字への理解と協力を広げていきたいと思っています。

義援金と活動資金

国内の被災者支援に 欠かせない二つの寄付

日本赤十字社が国内の被災者支援を行うために、皆さまからのご協力として欠かせないのが「義援金」と「活動資金」です。

義援金 被災者のお見舞い、生活支援に

被災者に直接届けられる支援が「義援金」です。日赤や中央共同募金会などの義援金受付団体に託された義援金は、被災自治体に組織される配分委員会に送金され、同委員会で定める配分基準（被害程度に応じて決定）に従って被災者に届けられます。日赤などの義援金受付団体では、手数料などをいただくことなく、全額を配分委員会に送金します。寄せられた義援金の100%が被災者に届けられる仕組みです。



平成28年熊本地震災害義援金

受付期間 平成28年6月30日(木)まで
受付口座 郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00130-4-265072
口座加入者名 日赤平成28年熊本地震災害義援金

※銀行振り込み、熊本県支部、信用金庫等でも受け付けています。詳しくは日赤のホームページ(<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/28/>)をご覧ください。

活動資金 救護・支援活動を支える

日赤が行う被災地での救護活動や救護物資の配布は、もちろん無料です。では、その資金はどこから出ているのでしょうか。答えは、皆さまから寄せられる活動資金です。私たちは、この活動資金に支えられ、日々の活動に取り組んでいます。

活動資金の寄付は、①赤十字の理念と活動に賛同し、年間500円以上の資金協力をいただく「赤十字社員」となる、②任意の金額を寄付いただく、の二つです。5月の赤十字運動月間中はもちろん、年間を通じて受け付けています。

活動資金の主な使われ方

- 災害時の救護活動とそのための備え（医療資機材や車両の購入、訓練ほか）
- 配布する救護物資（緊急セットや安眠セットなど）の備蓄
- 炊き出しなどボランティア活動の支援
- 青少年への防災教育
- 海外災害時の緊急救援活動、紛争地の医療支援、途上国への開発支援など
- 救急法や幼児安全法の講習
- 赤十字理念の普及 など



赤十字の「社員」としてのご協力方法(例)

口座振替

日赤ホームページ「寄付する」→「赤十字の社員(会員)になって支援する」→「口座振替による参加」から社員加入申込書をプリントアウトし、必要事項をご記入後郵送いただく。預金口座振替(自動引落し)により社員加入の手続きができます。

任意の金額でのご寄付の方法(例)

コンビニエンスストアの情報端末

コンビニエンスストアにある情報端末(タッチパネル式)を使用し、日赤への寄付を簡単に済ませます。

- ファミリーマート「Famiポート」
- ローソン「Loppi」

詳しくは、日本赤十字社のホームページをご覧ください
<http://www.jrc.or.jp/contribute/>

レノファ山口と協定 レノ丸くんも一肌脱ぎます！

山口県

山口県支部は3月25日、サッカーJ2のレノファ山口とパートナーシップ協定を締結しました。双方の活動理念への賛同を柱として相互に広報や情報発信を行い、活動への協力やファン・賛同者を増強する取り組みを展開していきます。

今回の協定に基づき、県支部では初の「赤十字親善大使」を同チームのマスコットキャラクター「レノ丸くん」に委嘱。また、山口県赤十字血液センターでは、献血協力者にレノファ山口の観戦チケットが抽選で当たるキャンペーンなどを実施していく予定です。



赤十字親善大使になったレノ丸くんは、県支部や施設が実施する募金活動や献血促進キャンペーンなどのイベントに参加します

9年連続で看護師国家試験に全員合格！

兵庫県

3月25日に合格者が発表された第105回看護師国家試験で、姫路赤十字看護専門学校の平成27年度卒業生37人全員が合格しました。同校は平成19年度から看護師国家試験合格率100%を継続しており、今回で9回連続の全員合格です。



いのちと尊厳を守る赤十字の看護を継承した卒業生たち。全員合格おめでとう！

27年度の看護師国家試験は従来と出題傾向が異なっていたため、試験終了後に泣きながら学校へ電話をかけてくる学生も。不安を抱えた中に届いた全員合格の知らせで、学校中に響き渡るほどの大歓声が上がりました。卒業生は4月からそれぞれの現場で看護師として働き始めています。

津波にさらわれた人々を救護せよ！ 海保と共同訓練

静岡県

静岡県支部は3月5日、焼津市主催による洋上からの救出・救助訓練に参加。清水海上保安部と連携し、洋上から搬送された人の治療や後方搬送の流れを確認しました。



海上保安部との共同訓練は今後も継続の予定

訓練は、南海トラフ地震による津波で、大勢の人が海に流される事態などを想定。漂流する傷病者らを救助した海上保安部が巡視船「おきつ」内で、トリアージ（治療優先順位の選別）を行い、接岸した巡視船から日赤救護班が待機する救護所へ搬送しました。日赤救護班はトリアージタグをもとに、傷病者に次々と治療を行いました。



後ろの巡視船「おきつ」(335トン)は平成23年6月に竣工。清水港に配備中

ランナーの安全は私たちが守ります 赤十字AED隊初出動！

島根県

3月20日に開催された「まつえレディースハーフマラソン」に島根県支部の「赤十字AED隊」が初出動。AED（自動体外式除細動器）と救急セットが入ったリュックサックを背負った5人の隊員が自転車でランナーと並走しながら、選手の安全を見守りました。



島根県支部では、県内のイベントや地域のスポーツ大会などの際、AEDの無料貸し出しを行っています

今回で37回目を迎えた同マラソン大会には2300人余りの選手がエントリー。AED隊はコース内に隊員をまんべんなく配置し、無線機を使ってランナーに異変がないかを確認し合いながら、安全確保に努めました。終盤に救助の要請が2件ありましたが、AEDを使用することなく無事に終了することができました。

出動準備OK！ 特別機動援助隊の緊急車両を新規配備

埼玉県

大規模災害などに備えた救助組織、埼玉県特別機動援助隊（埼玉SMART）の活動に使用する車両として、さいたま赤十字病院にRV車が配備され、4月1日から運用がはじまっています。



救命率向上や後遺症の軽減などに結び付く事が期待されています

埼玉SMARTは、消防局の機動救助隊、埼玉県防災航空隊、DMAT（災害派遣医療チーム）で編成。今回配備された緊急車両は、救命救急医療や災害時における救助が必要とされる現場へいち早く駆け付けけるためのもの。日常は医師や看護師が同乗し、救急現場や搬送中に医療行為を行うドクターカーとしても運用されています。

乳児院「面会ボランティア」養成をスタート

徳島県

徳島赤十字乳児院は、2～3月にかけて「面会ボランティア」の説明会を開催。約20人の希望者が面会ボランティアの役割や意義について説明を受けました。



やさしく抱いたり、遊び相手をしたり。子どもたちを温かく見守るのが面会ボランティアの役割です

同院では現在約30人の子どもたちが生活していますが、家族との面会が遠のくケースが増加。母子の触れ合いや家庭のぬくもりを経験したことのない子どもへの支援が課題となっています。

面会ボランティアは、家族に代わって定期的に子どもと面会。「職員以外にも自分を見守っていてくれる人がいる」と感じられる時間をつくり出すことで、子どもの心をいたわり、健やかな成長につながることが期待されています。

ビッグな献血イベント、大相撲藤沢場所献血キャンペーン！ 神奈川県

神奈川県藤沢市内の体育館で4月9日に開催された「大相撲藤沢場所」に合わせて、献血バス10台が集結するビッグな献血キャンペーンが行われました。

同キャンペーンは、藤沢場所の勸進元、最上重夫さん（株式会社湘南宮繕協会）の協力により、平成18年から継続。年々参加者の輪が広がり、こしは666人が献血に足を運ぶなど、日本最大級の献血イベントに成長しました。日頃から日赤の活動を支援・協力する最上さんは「私たちの活動が神奈川県下、ひいては全国に波及することを願ってやみません」と抱負を語っています。キャンペーンのセレモニーには、黒岩祐治神奈川県知事や日赤の近衛忠輝社長も出席し、最上さんに感謝状が贈呈されました。



自ら先頭に立って献血をする勸進元的最上さん



白鵬(写真左)、日馬富士の両横綱も笑顔で献血を応援！

ネパール地震1年

地域医療を支える診療所
日赤支援で完成

地震発生から1年、日本赤十字社は最も被害の大きかったシンドパルチョーク郡の山間部で、地域診療所の再建を通じた医療支援を行っています。このほどラガルチェ村の診療所が完成し、4月17日に伝達式が行われました。

伝達式では村民から赤十字の支援に感謝が述べられました。6年前から目を悪くしているマイヤガーダさん（71）は「地震で診療所が壊れてとても辛かった。診療所ができて本当に助かります」と声を震わせます。来賓として参加した日赤の辻住輝開発協力課長は「コミュニティーの協力の下で進められたこの診療所の再建は、今後の復興のモデルケースにもなるものです」と期待を語ります。

日赤は被災者ニーズ調査を踏まえ、給水や教育、住宅などの課題についても、今後、本格的な支援計画を策定することとしています。



復興は公共施設などの再建が進んでいますが、被災した村々の市民生活は住宅再建を始めとしてまだ、さまざまな課題が残っています

32年間の協力に感謝 血液センターで献血受付終了

徳島県

徳島県赤十字血液センターで行われていた献血受付業務が3月20日をもって終了しました。県内での献血は現在、献血ルームと移動採血バスで受付を行っています。

同センター内での献血受付業務は32年間にわたり続けられてきたもの。常連の献血協力者も少なくありません。最終日には、業務開始の9時前から10人が並ぶなど、一日で38人の献血者が来所。センターから心ばかりの記念品を手渡すと、「寂しくなるね。でも、献血はどこでもできるから。また別の場所でお会いしましょう」と笑顔で応えてくださる方もいました。



職員そろってのお見送り。長年の感謝を精一杯込めました

プロバスケットとコラボ 働く赤十字の車を大公開

愛知県

プロバスケットボールチーム、浜松・東三河フェニックスが4月3日に豊橋市総合体育館で開催した「オーエスジー&フェニックス春祭り」に愛知県支部は赤十字ブースを出店。「はたらく車大集合」のコーナーに通信指令車や移動採血車などを展示しました。

浜松・東三河フェニックスは同県支部とパートナーシップ協定を締結している地元チーム。この日は岩手ビッグブルズを迎えた試合も体育館内で行われ、会場を埋めた3000人のファンが熱い声援を送りました。



大勢の方が日赤車両を見学



赤十字ブースには子ども救護服試着コーナーも設置

Voice & プレゼント

Voice 赤十字NEWSにお寄せいただきました熊本地震災害についての読者の皆さまの声をお届けします。

- 熊本地震で被災された方のことを思うと胸が痛みます。自分にできることは小さなことかも知れませんが、復興を願って応援を続けていきます。
——吉本大輝さん（東京都）
- 日赤の皆さんの存在が心強いです！ 私たちができることは募金しかありませんが、少しでも活動のお役に立てればと思っています。
——新野桃子さん（青森県）

プレゼント

「りかちゃん♡マスコット」を3名様にプレゼントいたします。
以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前（匿名をご希望の方は、その旨をご記入ください）
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS5月号を手に入れた場所（例/献血ルーム）
- ⑥5月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
 - ① 今月の出会い
 - ② 平成28年熊本地震災害 全国から救護班が熊本へ
 - ③ 被災地の中学生が日赤訪問
 - ④ 児童福祉週間
 - ⑤ 常任理事会開催報告
 - ⑥ 特集 赤十字運動月間 災害時の救護・支援活動
 - ⑦ エリアニュース
 - ⑧ LOVE in Action Meeting(LIVE)
- ⑦ ① ネパール地震1年 地域医療を支える診療所
② VOICE&プレゼント ③ 昭憲皇太后基金 配分決定
④ 継聖会が初のチャリティー講演会 ⑤ エクアドル地震救援金
- ⑧ 赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。



応募先 ● 郵 送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS5月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785
メール/koho@jrc.or.jp（件名「赤十字NEWS5月号プレゼント係」）

応募締切 ● 5月30日（月）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

平成28年全国赤十字大会中止のお知らせ

熊本地震災害の対応（緊急の救護活動など）のため、5月11日に予定されていた平成28年全国赤十字大会は中止とさせていただきます。

愛の献血×MUSIC=LOVE in Action Meeting(LIVE)

東京国際フォーラムへ4500人をご招待！

6月14日の世界献血者デーに合わせて豪華アーティストが6月13日（月）、東京国際フォーラム（東京・有楽町）に集結！ 熱いライブパフォーマンスを繰り広げる「LOVE in Action Meeting (LIVE)」に4500人を抽選で無料招待*します。

「LOVE in Action」は、献血への理解・協力を若年層に広げていく献血推進プロジェクト。平成21年にスタートし、ライブイベントはことしで7回目を迎えます。出演は気志團、Silent Siren、Da-iCE、ナオト・インティライミ。MCを務めるプロジェクトリーダーの山本シュウさん、ラジオ番組「LOVE in Action」のパーソナリティーの小林麻耶さんの2人がアーティストとともに、献血の大切さや若年層の献血率低下などの現状を伝え、献血への協力を呼び掛けます。

2016.6.13 (Mon)
東京国際フォーラム ホールA
無料ライブに抽選で4,500名様をご招待!!

出演アーティスト: 気志團, Silent Siren, Da-iCE, ナオト・インティライミ, 山本シュウ, 小林麻耶

MC: 山本シュウ, 小林麻耶

主催: 日本赤十字社 献血推進プロジェクト

場 所 東京国際フォーラム ホールA（東京都千代田区丸の内3-5-1）

日 時 平成28年6月13日（月）17時30分開場、18時30分開演（予定）

応募期間 5月6日（金）23時59分まで

招待人数 4500人（ご応募は満16歳以上の方に限定させていただきます）

応募方法 インターネット、献血会場にある専用FAX用紙でのお申し込み

※別途券手数料が生じます。詳細はLOVE in Actionプロジェクトの公式ウェブサイト（<http://ken-love.jp/meeting.html>）をご覧ください。

WORLD NEWS



エクアドル

昭憲皇太后基金 10カ国の赤十字社へ約3000万円を配分

世界で最も古い歴史を持つ開発協力基金「昭憲皇太后基金」の今年度の配分先がコロンビア赤十字社など世界10カ国の赤十字社・赤新月社に決定しました。赤十字国際委員会 (ICRC) と国際赤十字・赤新月社連盟 (連盟) でつくる同基金合同管理委員会から昭憲皇太后の命日である4月11日に発表されたものです。

今回の配分は総額で約3000万円。各配分先の赤十字社が取り組む社会福祉支援や教育活動、防災事業などに活用されていく予定です。

第1回配分から94年 世界161の国と地域の 人道支援活動をサポート

昭憲皇太后基金は、明治天皇のお后である昭憲皇太后が明治45 (1912) 年に国際赤十字へ寄付した10万円 (現在の約3億5000万円) をもとに創設。大正10 (1921) 年の第1回配分から

今回までで、約15億900万円が世界161の国と地域へ配分されてきました。

当初はヨーロッパ諸国の結核対策など保健衛生事業が中心でしたが、戦後は途上国の災害対策や血液事業、救急車・医療機器の購入などへの支援に移行。現在は、青少年教育や福祉事業を含め、幅広い人道支援活動に役立てられています。

今年度の配分先と対象事業

- ① アルバニア赤十字社 (ヨーロッパ)
差別や暴力を撲滅する若年層向けの教育支援……………約199万円
- ② ガボン赤十字社 (アフリカ)
保健サービスの改善に向けたボランティアへの健康基礎教育……………約158万円
- ③ ケニア赤十字社 (アフリカ)
赤十字活動の意思決定や管理を担っていくユースリーダー育成……………約318万円
- ④ モロッコ赤新月社 (アフリカ)
ホームレスや子ども、高齢者などに対する支援活動……………約275万円
- ⑤ コロンビア赤十字社 (南アメリカ)
気候変動から環境資源を守るコミュニティー支援……………約345万円
- ⑥ エクアドル赤十字社 (南アメリカ)
ユースボランティアによる性感染症検査のキャンペーン……………約332万円
- ⑦ パラグアイ赤十字社 (南アメリカ)
社会活動で活躍できるユースボランティアの育成……………約311万円
- ⑧ マレーシア赤新月社 (アジア大洋州)
救急法講習や防災訓練を通じた災害対応能力の強化……………約326万円
- ⑨ モンゴル赤十字社 (アジア大洋州)
ソーシャルメディアを活用した防災意識の向上……………約367万円
- ⑩ サモア赤十字社 (アジア大洋州)
健康増進と暴力行為抑止の啓発……………約345万円



マレーシア赤新月社



昭憲皇太后



モロッコ赤新月社

昭憲皇太后の意志継承 継聖会が初のチャリティー講演会

昭憲皇太后の意志を継承し、後世に伝えていくための組織として昨年設立された「継聖会」の第1回チャリティー講演会が4月8日、日本赤十字社本社 (東京・港区) で開催され、およそ100人が参加。日赤・近衛忠輝社長の講演や社内の情報プラザ、特別会議室の見学を通じ、赤十字の歴史と役割、昭憲皇太后基金への理解を深めました。



継聖会代表西園寺さん (左) と日赤近衛社長 (右)

継聖会は、学習院卒業生でつくる常磐会有志が呼び掛け、財界、医療界など各界の賛同者により昨年3月に設立されたもの。今後も定期的にチャリティー講演会やイベントを開催し、募金を日赤へ寄付することとしています。

代表を務める西園寺昌美さん (公益財団法人 五井平和財団会長) は「世界の開発支援の先駆けとなる昭憲皇太后基金を生んだ昭憲皇太后の意志を日本、世界へと伝えていくことが会の目的です。人種や民族、宗教を超えて、利他的精神を貫かれた昭憲皇太后の御心を継いでいくことが、若い皆さんの未来への希望や、多様性を重んじた平和な世界の実現へつながらと信じています」と抱負を語っています。

南米エクアドルで大地震 被災者支援へ救援金受付中



エクアドル赤十字社

南米エクアドルで4月16日、マグニチュード7.8の地震が発生しました。多数の死者が確認されるなど大きな被害が出ています。被災地では多くの建物が倒壊しており、今後、被害者はさらに増えると見られています。エクアドル赤十字社からは800人のスタッフと

ボランティアが出勤して救助活動や応急救護、こちらのケアを行っています。

日本赤十字社では、この地震による被災者へ支援する救援金を受け付けています。寄付いただいた救援金は、エクアドル地震災害の救援活動にあてられます。

救援金名称	2016年エクアドル地震救援金	受付期間	2016年7月29日 (金) まで
受付方法	①郵便振替 (ゆうちょ銀行・郵便局) ※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます。		
	口座記号番号 00110-2-5606 / 口座加入者名 日本赤十字社		
	②銀行振込		
	口座番号	三井住友銀行	すずらん支店 普通 2787755
		三菱東京UFJ銀行	やまびこ支店 普通 2105760
		みずほ銀行	クヌギ支店 普通 0623366
	※口座名義はいずれも「日本赤十字社 (ニホンセキジユウジヤ)」 ※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります。		
	③クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy		
詳細は、日赤のホームページ 検索 日本赤十字社 救援金 をご覧ください。			
(本情報は2016年4月22日現在のものです)			